

令和4年度 自己評価表 (報告)

愛媛県立北宇和高等学校

学校番号 (43)

教育方針		教育基本法に基づき、人格の完成を目指し平和的な国家社会の有為な形成者として必要な資質を養い、国際的視野を持った心身ともに健康な国民を育成する。	重点目標	豊かな人間力～徳・知・体～を育む教育の実践 築き創り繋ぐ北宇和高校 新たなるスタート	
域 領	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
学 習 指 導	家庭学習の充実	平常日における家庭学習時間を1日平均120分以上確保させる。A:120分以上 B:100分以上 C:90分以上 D:70分以上 E:60分以下	C	1学期 97分 (94分) 2学期 99分 (92分) * ( ) : 昨年度	・教科で適切な課題を出し、しっかりと評価と事後指導をすることで、より良い学習態度を育成する。 ・自主生活ノートに「学習時間」を記録させ、自己の振り返りを促す。 ・面接により、進路意識を向上させ、学習意欲を高めるとともに、効果的な学習方法について指導する。 ・公営塾の利用を呼びかけ、日々の学習習慣の定着を図る。
		各学期、担任との1回以上の個人面談を実施し、家庭学習の在り方や進路等についてのこまめな指導を行う。	A	毎学期の初めに、面談週間を設けて、学習や進路・学校生活に関する指導や助言を行っている。	・来年度も今年度と同様に、各学期に面談週間を設け、生徒の学習状況を把握し、進路指導に努める。
	教科指導の充実	ICT機器を利用した授業法等の自己研修・相互研修に努め、一人一台端末を生かした、分かる授業・伸ばす授業の研究を行う。	B	1学期末の授業評価ではほとんどの教科・科目で4以上の評価が出ている。落ち着いた雰囲気でもできている。 教科によっては、積極的に一人一台端末の利用しており、授業の工夫もみられる。 新しい学習支援ソフト「エイリス」の講習会を実施して、活用を図った。	・習熟度別や少人数による授業を効果的に取り入れ、きめ細かい授業が行えるようにする。 ・授業研修を行い、指導方法や評価法の研究をする。 ・基礎学力の定着が必要な生徒に対して、個別指導を行う。 ・ICT機器を効果的に活用し、生徒の学習意欲を高める。
		基礎学力の定着を図るために、学年団と連携し、「学びのすすめ」を効果的に実施するとともに、公営塾の利用を勧める。	B	「学びのすすめ」にはまじめに取り組んでいる。生徒自身も、学力効果につながったという意識があるようだ。	・生徒の学習進度に合わせた教材を検討し、理解度を高めることで学習意欲を高める。 ・クラス全体で、集中して取り組むよう指導する。
		図書・研修課と連携を取りながら、年4回以上の職員研修・年4時間以上の授業研修を行い自己研修の推進と指導力の充実を図る。	A	校内研修会で研修会参加報告を行ったり、ICT研修会で、チームズを使った授業配信方法の研修を行ったりした。	・相互授業参観、校内研究授業を継続して実施。充実した研修となるよう工夫する。 ・学校訪問研修等、研修の案内を確実にし、できる限り多くの研修に参加できるようにする。
	生 徒 指 導	基本的生活習慣の定着	明るいあいさつ100%、皆勤率65%を目指す。 皆勤率A65%以上 B:64~60% C:59~55% D:54~50% E:50%未満	C	毎月、身だしなみ指導を実施した。 あいさつについては、教職員が率先して行うとともに、生徒会役員の生徒が自発的に、朝のあいさつ活動を実施した。 皆勤率については、昨年度からは下がっている。
交通安全意識を高め、交通事故0件、ヘルメット着用率100%を目指す。 A:100% B95% C90% D85% E80%以下			A	交通事故は1件 年5回、教員、生徒交通安全委員による街頭指導を実施した。 毎学期、車体検査及び施設調査を実施した。 全校集会で、マナー向上の啓発活動を実施した。 自転車通学生のヘルメット着用は定着した。	・教員による街頭指導や交通安全委員や生徒会による交通安全啓発運動をさらに充実させ、今後は交通事故0件を目指し、生徒が事故の加害者、被害者にならないよう啓発に努める。 ・車体検査や施設率調査を継続することで、安全に対する意識を高める。 ・通学時以外でも着用するよう効果的な指導の継続を図る。 ・教員も率先して着用するよう心掛ける。

	学校生活の充実	生徒会行事満足度100%、部活動加入率95%、四国、全国大会出場を目指す。満足度A100% B95% C90% D85% E80%以下	B	満足度調査によると、鬼北歩行 91.7%、体育祭 100 %、文化祭 96.4%、クラスマッチ93.0%でほぼ満足している。 県総体出場人数 5 1 人、四国大会出場7人、全国大会出場 2 人	・生徒や地域の実態に即した学校行事の内容を検討し、効果的な指導の継続を図る。 ・中学校との合同練習等を行い、部活動の活性化に向けた取組を実践する。 ・本校の現状に応じた部の精選を行い、各部の強化、充実を図る。 ・教職員の共通理解・共通実践を図るとともに、生徒が活動しやすい状況を構築し、能力を発揮できる部活動への入部率を高め、活性化を図る。
進路指導	進学指導の充実	進学決定率100%を目指す。 A:100% B95% C90% D80% E70%以下	A	進学決定率100%（国公立大学 1 名、私立大学15名、私立短期大学 3 名、専門学校30名）	・キャリアパスポート「北辰キャリア」を積極的に活用し、個に応じた指導を行う。 ・「進路だより」の内容を再検討して、時期ごとに適切な進路情報を提供する。 ・「進路の手引き」の内容を検討し、進路学習に有効な資料となるように改善を図る。 ・「ホームルーム活動」、「総合的な探究の時間」及び「学習合宿」等を活用して、進路意識の高揚を図る。 ・進路資料室の資料の配置を改善して、より利用しやすい環境を作る。 ・早期に進路目標を持たせ、個別指導を徹底し、一人一人の個性に応じた進路指導を推進する。
	就職指導の充実	就職内定率100%を目指す。 A:100% B95% C90% D80% E70%以下	A	就職内定率100%（県内就職者18名、県外就職者17名、うち公務員 4 名）	・キャリアパスポート「北辰キャリア」を積極的に活用し、個に応じた指導を行う。 ・各学年に応じた望ましい勤労観と職業観を育み、自らの進路選択に必要な能力や態度を身に付けさせる。 ・鬼北町役場と連携して、地元企業合同説明会を1・2年生対象に実施する。 ・就職課外（3年生の1学期）の内容を充実させ、就職活動の基礎知識を身に付けさせる。
業務改善	適切な勤務時間	<u>校務支援システムの活用を推進し、教職員の勤務時間を守り、休憩時間を確保する。会議の精選等を行い、業務の効率化を推進する。</u>	B	会議や行事の精選により、業務の効率化を図った。しかし、勤務時間外の勤務時間が月80時間を超える教職員がいるため、さらに校務の効率化と勤務時間の適正化を図る必要がある。	・勤務時間の管理を校務支援システムの活用により、各教職員が見直し、適切な休憩時間を確保し、業務の効率化を図る。さらに、会議や行事の精選を行うとともに、部活動や校務の効率化を図り、勤務時間外の勤務時間の適正化を図る。
	職場環境の整備	<u>健康管理医による健康相談を定期的実施し、教職員の疲労や心理的負担の軽減を図る。</u>	B	各種健康診断、ストレスチェック、学校医による講話を行った。健康相談により、教職員の疲労や心理的負担の軽減を図った。	・健康相談を定期的実施し、さらに、ストレスチェックやアンケートを通して、職場環境改善策を実施し、安心安全な職場づくりに尽力する。
	人権・同和教育の充実	<u>差別を無くす行動力を育てる学習内容をさらに充実させるとともに、保護者・地域との連携を強化できるよう、教職員が共通の意識をもって取り組む。</u>	C	人権だよりで啓発を行った。教職員の人権感覚向上のために作成を任せたが、もう少し工夫が必要だった。また、教職員の研修が感染症の影響で実施できなかった。	・人権だよりを通して保護者にも啓発できるよう内容を充実させる。 ・人権講演会等により教職員・生徒が差別の現実を学び主体的に行動できるよう心掛ける。

その他	教育相談の充実	他者感覚の視点に立ち、教育相談の充実に努め、 <u>生徒を中心としたメンタル面のケアに努める。</u>	B	今年度もSLA及び保健室の機能を活用し、問題を抱えた生徒達への対応が行えたように理解している。 校務系の確認のシステムを活用し、意識付けや情報の共有、チームを組んでの問題解決等を進めることができた。	・アンケートを通し、問題として浮上してきた事柄は、教員でチームを組み、問題解決に向けて動くことができたが、より効果的にシステムが機能するよう見直していきたい。 ・今年度も新型コロナウイルスの影響が、生徒のメンタル面に強く影を落としているように思えた。ただし、生徒達にもある種の慣れと緩みが見受けられる。一層の啓発に力を入れたい。
	安全・危機管理の充実	防災避難訓練等を通して、緊急時に的確な判断で自助・共助できる生徒の育成を目指す。	B	消防署と連携した火災発生に対する防災対避訓練やシェイクアウトえひめを通して、生徒の安全意識の高揚を図ることができた。	・災害等に対して、生徒・教職員が、最善で迅速な判断・行動がとれるよう意識した防災訓練を行う。
	地域と連携した学習の推進	小学校との連携学習や開放講座を35回以上実施。学校・行政・地域との更なる連携の強化。A:35回以上 B:30回 C:25回 D:20回 E:20回未満	B	今年度24回の連携学習及び連携学習費を活用した野菜・草花苗配布を計画していたが、コロナウイルス感染症予防のため21回の実施となった。また、イベント等の参加が7回できた。それ以外に授業内の外部との交流活動が以前のようにできるようになった。	・連携学習の際に、生徒が小・中学生を適切に指導できるよう努める。
	保護者や地域との情報交換の推進	<u>コロナウイルス感染症拡大防止の観点</u> から中止したPTA総会の承認または否認の用紙の <u>回収率98%以上</u> を目指す。また、保護者懇談会の保護者出席率100%を目指す。出席率A:100% B:95% C:90% D:85% E80%以下	B	今年度は、PTA総会開催の文書を発送後に、コロナウイルス感染が拡大し、急遽PTA総会を中止し、書面開催に変更した。そのため、保護者から回収する用紙が重なり、PTA総会の文書承認に対する回収率は92.9%と低迷であった。1学期及び2学期に保護者懇談会を実施した。懇談日時を保護者の都合に合わせるなどして、出席を促し、出席率は100%であった。	・保護者から提出していただく書類は、担任を通じて、積極的に保護者に呼びかけ、回収率100%を目指す。また、保護者懇談会については、保護者が参加しやすい日程や時程をさらに整える。

\* 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。